

2022年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.2 (通算第7号)

2022年度新入生の特徴と入学後への期待 「2022年度新入生アンケート調査」結果 — 昨年度との比較 —



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2022年度の新入生は、コロナ禍での生活を2年以上経験したのち本学に入学し、4月からは対面を基本とした授業を経験してきた学生たちです。アンケートへの回答率は若干上がって54.9%でしたが、ほぼ同様であった前年度及びそれ以前の学生たちとどのような違いがあるのか、比較を行いました。全体としての回答傾向に大きな違いはありませんでしたが、注目したのが「身につけたい力」等に対する希望です。ほとんどの項目で選択した学生の比率が上昇しており、なかでも「多文化・異文化に関する知識」「情報リテラシー」「数字やデータによる把握・分析力」の選択率が大幅に伸びています。さらに、「哲学的思考」や「日本の文化・歴史の理解」も増えました。また、別項目では、課外活動への強い期待も読み取れますし、制限されてきた国際交流への意欲もみられます。社会で求められている力を身につけたいとする意識と、本学が大切にしている哲学的思考についての期待が高くなっていることは、新入生がアフターコロナを見据えた大学生活への期待を抱いていることを物語っているのではないのでしょうか。その期待に応えられるように、この間に獲得した教授方法における豊かな技術・スキルも活用し、大学全体で教育の一層の充実を図りたいと思います。

2022年度・2021年度「新入生アンケート」調査概要

実施対象：4月入学の学部1年生 実施方法：Webアンケート(ToyoNet-ACE)

	実施期間	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
2022年度	2022年4月15日～5月9日	7,403	4,064	54.9%
2021年度	2021年4月16日～5月22日	7,282	3,813	52.4%

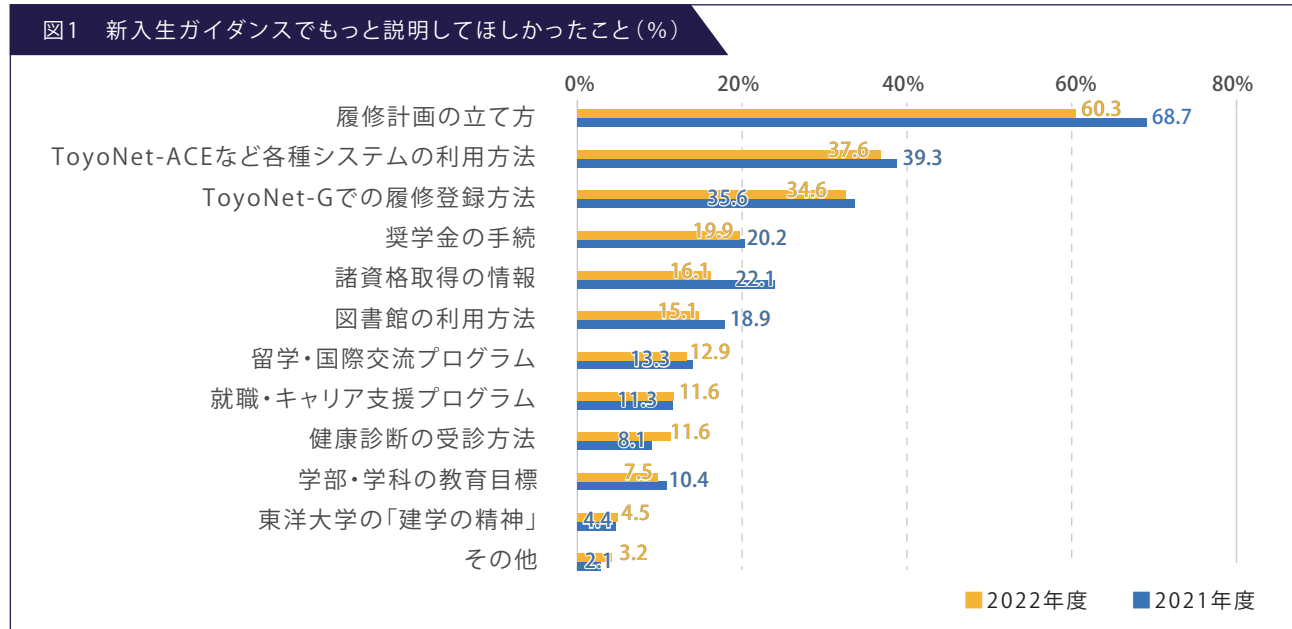
分析担当：IR室 教授 劉文君

分析の目的：今年度の新入生の特徴および大学生活への期待について、昨年度と比較しつつ明らかにする。また、一部関心が高いと思われる項目について学部間の差異を分析する(紙幅の制限によりデータを省略する、東洋大学ガールーンに掲載される学部別の詳細データをご参照いただきたい。※学内限定)。

1. 新入生ガイダンスについて

新入生ガイダンスでもっと説明してほしいことは、「履修計画の立て方」「ToyoNet-ACEなど各種システムの利用方法」「ToyoNet-Gでの履修登録方法」が上位3項目となっている(昨年度も同様)。多くの項目で選択率が減少しており、ガイダンスの説明全体が改善されている傾向にあるが、最も多い「履修計画の立て方」が昨年度より8%減少したものの、まだ6割を超えるため、さらなる改善が求められている。この「履修計画の立て方」は、学部による差異が大きく、最も高い学部は約7割、最も低い学部は4割未満。文系学部の方が比較的高い傾向がみられる。

図1 新入生ガイダンスでもっと説明してほしいこと (%)

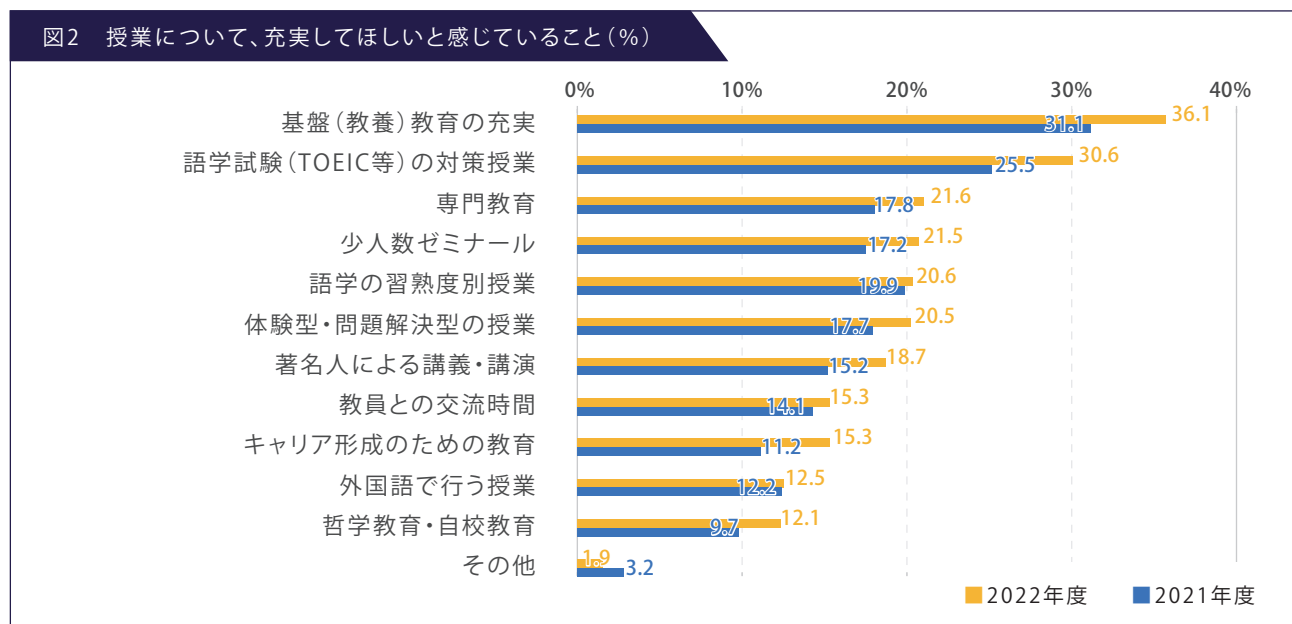


2. 授業、学習支援、学生生活について

① 授業について(充実してほしいこと)

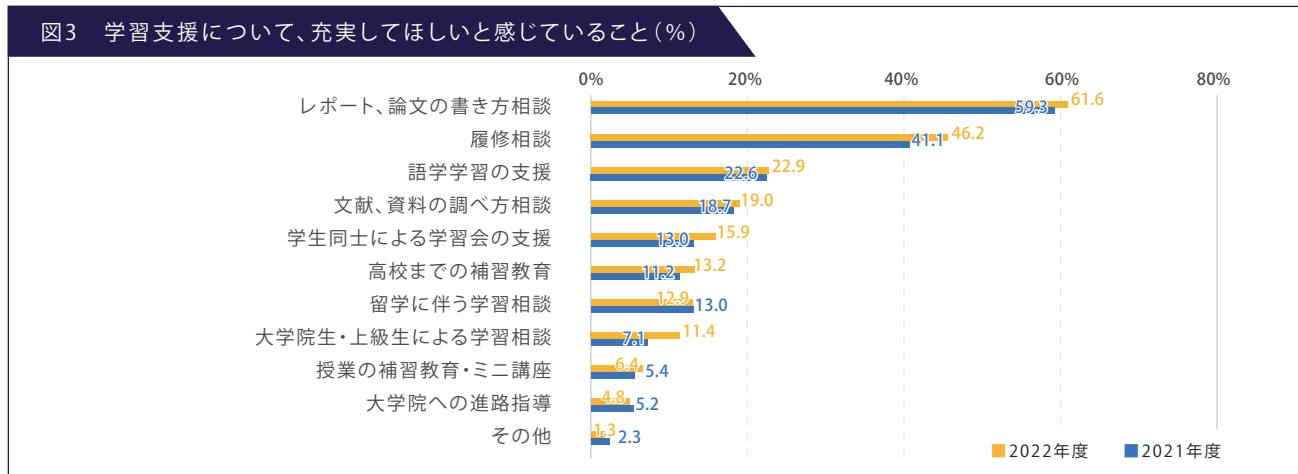
2022年度・2021年度ともに「基盤(教養)教育の充実」「語学試験(TOEIC等)の対策授業」が上位となり、1年生の履修科目の特徴を反映している。すべての項目で昨年度より選択率が高く、これから受講する授業について要望が高くなっている一方で、回答者が新入生のため、現在受けている授業に関する項目を選択する傾向にも留意したい。

図2 授業について、充実してほしいと感じていること (%)



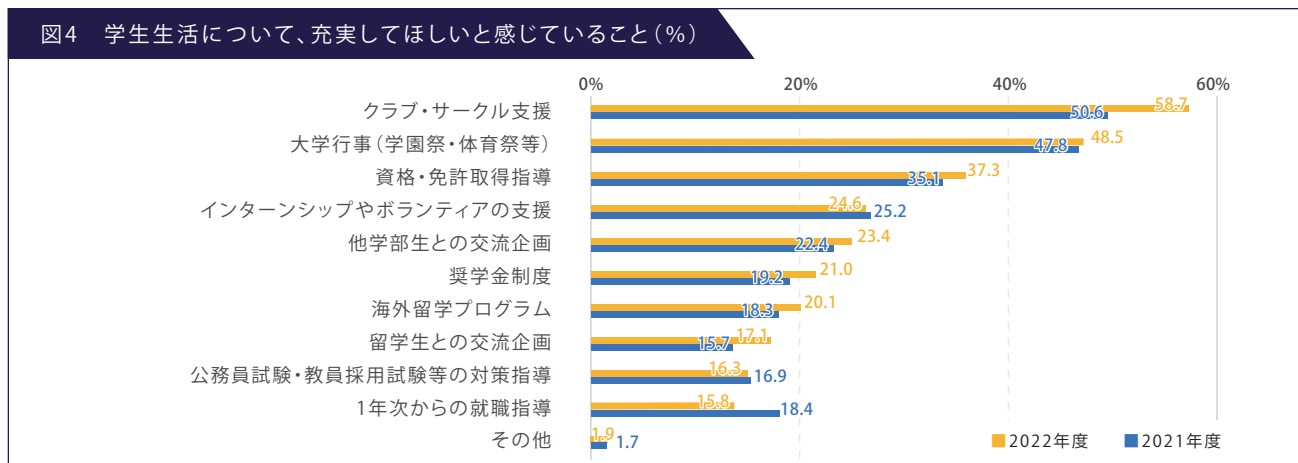
② 学習支援について(充実してほしいこと)

「レポート、論文の書き方相談」「履修相談」「語学学習の支援」が上位3項目(昨年度と同様)。すべての項目で昨年度より選択率が高い(要望が高くなっている)。最も選択率が高い「レポート、論文の書き方相談」は学部間の差が大きく、最も高い学部は7割強、最も低い学部は5割未満である。学部の文理では明確な差がなかった。



③ 学生生活について(充実してほしいこと)

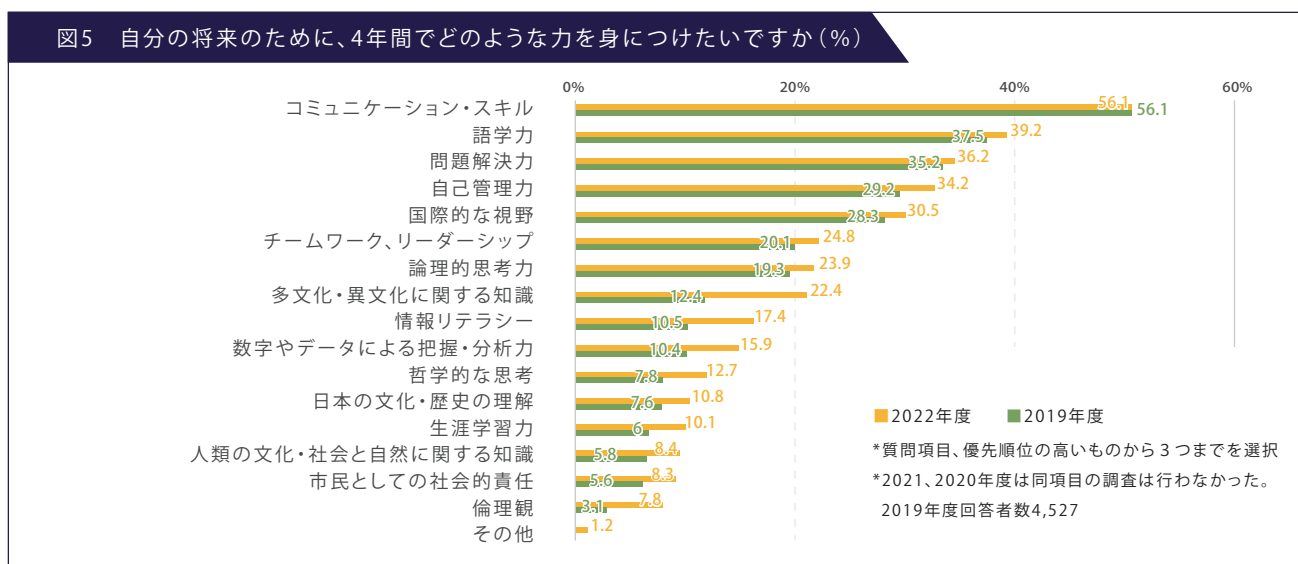
「クラブ・サークル支援」「大学行事(学園祭・体育祭等)」「資格・免許取得指導」が上位3項目(昨年度と同様)。各項目での選択率が昨年度より高く(充実の希望が高)くなっている。



3. 身につけたい力、将来の進路

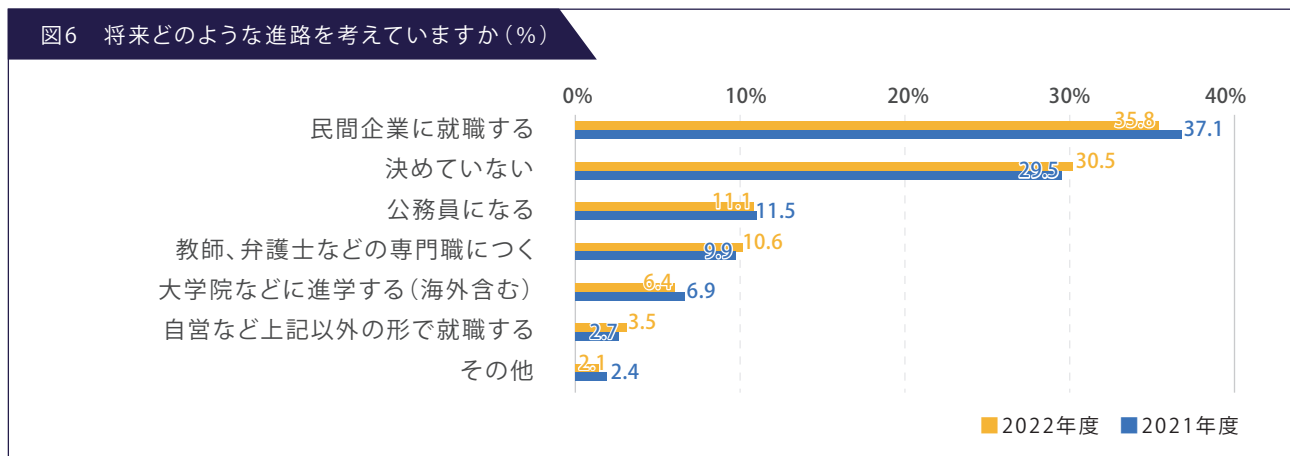
① 身につけたい力

「コミュニケーション・スキル」「語学力」「問題解決力」が、上位3項目(2019年度と同じ)。ほぼ全ての項目での選択率が2019年度より高く(期待が高)くなっている。特に「多文化・異文化に関する知識」「情報リテラシー」「数字やデータによる把握・分析力」などの項目の増幅が大きい。



② 将来の進路

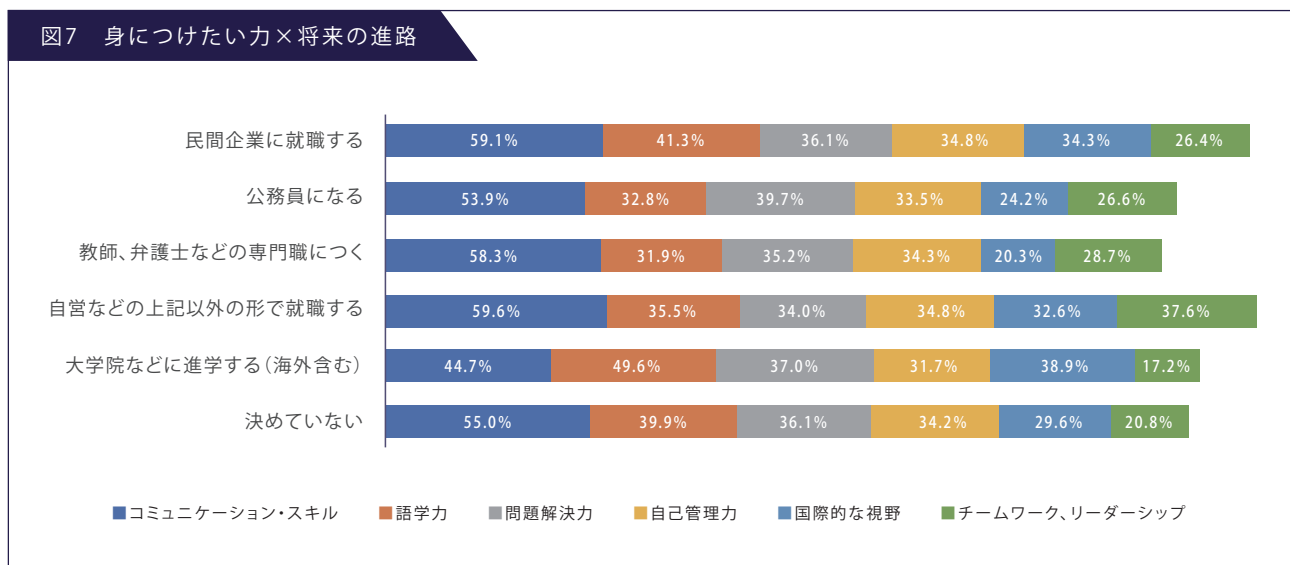
項目の順位は昨年度と同様だが、回答傾向に学部間の差が大きく、最も高い割合の「民間企業に就職する」(35.8%)は、最も高い学部で約6割、最も低い学部では25%未満。続く「決めていない」(30.5%)は、最も高い学部が約4割、最も低い学部が25%未満。「大学院などに進学する(海外含む)」(6.4%)は、最も高い学部が2割強、最も低い学部では0.3%と、学部間の差が見られる。



③ 将来の進路 × 身につけたい力

希望する「将来の進路」別に、「身につけたい力」上位6項目(図5を参照)の選択率を比較した(図7)。

全体で最も選択率の高かった「コミュニケーション・スキル」は、「大学院などに進学する(海外含む)」が最も低く(44.7%)、「自営など上記以外の形で就職する」が最も高い(59.6%)。「語学力」では、「大学院などに進学する(海外含む)」が最も高く(49.6%)、「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」は約3割に留まる。「国際的な視野」は、「大学院などに進学する(海外含む)」(38.9%)が最も高く、「教師、弁護士などの専門職につく」「公務員になる」は2割台に留まる。「チームワーク、リーダーシップ」は、「自営など上記以外の形で就職する」が最も高く(37.6%)、「大学院などに進学する(海外含む)」が最も低い(17.2%)。「問題解決力」「自己管理力」では、希望進路による大きな差はなかった。



まとめ

「新入生ガイダンス」について、昨年度よりは説明不足と感じる割合が減少し、全体的に改善されている傾向が示されている。「授業・学習支援・学生生活の充実」「身につけたい力」に関する項目での割合は昨年より高くなっていることから、新入生の学修意欲、大学教育への期待がより高くなっている姿勢が示されている。「将来の進路」については、昨年度と同じ傾向が見られ、「決めていない」割合が約3割である。多くの側面で学部間の差異(特徴と課題)が見られる。また、新入生が考えている「将来の進路」により、(4年間で)「身につけたい力」に相違があり、それぞれに一定の対応関係が見られる。これは大学教育、キャリア教育のあり方に参考になると思われる。